

第24期 国立市社会教育委員の会（第24回定例会）会議要旨

令和5年4月25日（火）

[参加者] 日野、砂押、石居、矢野、栗畑、中野、朝比奈、笹生、倉持、生島

[事務局] 井田、土方、高橋

生島議長 それでは、第24期国立市社会教育委員の会の第24回、最後の定例会となりますが、開会させていただきたいと思っております。

本日は御欠席の連絡はいただいてなくて、石居委員はちょっと遅刻されるということでした。定足数には達しておりますので、本日の会議を始めさせていただきたいと思っております。

それでは、まず初めに本日の配付資料につきまして、事務局から御説明をお願いいたします。

事務局 事務局でございます。本日もよろしくお願いたします。

配付資料の確認をさせていただきます。まず、次第が載っている山を御覧ください。次第が一番上に載っております。その下が資料1ということで、今回の意見書でございます。ハイフンがついていまして、資料1-1がかがみ文、資料1-2が意見書の内容でございます。こちらは修正箇所が見える形で印刷したものでございます。資料1-3が、資料1-2の修正箇所を全部直すと最終的にはこういう形になりますということで作られたものでございます。それから、資料番号はつけてございませんが、4月15日に行われた東京都市町村社会教育委員連絡協議会の定期総会の議案書を抜粋したものと、当日の研修資料をおつけしてございます。

続きまして、もう1つのほうの山を御覧ください。一番上は前回、第23回定例会の議事録となっております。修正箇所等ございませんでしたら、市のホームページのほうで公開させていただきます。その下は、公民館から公民館だよりと図書室月報、図書館からいんふおめーしょん、くにたち文化・スポーツ振興財団からオアシスをおつけしてございます。

配付資料は以上でございます。

生島議長 はい。ありがとうございます。

それでは、次第2の報告書の決定についてに入りたいと思っております。お手元に配付いたしました資料1-1と資料1-2を御覧ください。

報告書案につきましては、前回の第23回定例会において、内容や言い回しについて、委員の皆様から御意見をいただきました。

本日は報告書案について、前回の審議内容が反映されているか、まず確認を行いたいと思っております。その上で、第24期国立市社会教育委員の会の報告書として、決定をするというところまで、今日は持っていくこととなります。

それでは、まず前回の修正箇所につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

事務局 事務局でございます。まず資料1-1を御覧ください。こちらは意見書のかがみ文となりますが、前回の第23回ではこちらの修正箇所はございませんでした。

続きまして、資料1-2を御覧ください。こちらは本文となっておりまして、前回第23回で修正すべき箇所が複数ございましたので、1ページ目から御紹介させていただきます。また、前回の審議以外でも、事務局で気づいた点等々、

細かいところで直しが入っていますので、併せて紹介させていただきます。

まず、1ページ目の「はじめに」のところ。一番下、4段落目のところで、1か所追記した部分がございます。もともと「展開するための視点及び提案をとりまとめることとした」というところでしたが、ちょっと言葉が足りないということで、「事業を展開するための視点及び提案をとりまとめることとした」ということで、「事業を」を追加してございます。

おめくりいただきまして、2ページでございます。前回、数字の表記の御意見をいただきまして、事務局のほうで再度確認いたしました。1桁の数字については全角で揃えるということで、確認したところ、2ページで2か所、数字の「1」が半角でございましたので、全角に直しております。具体的にはページの真ん中あたり、③芸術小ホール主催アウトリーチ事業の1つ目のポツのところと、(2)くにたち郷土文化館の2段落目、「1月25日」の「1」、こちらの2か所が修正されています。

ちょっと飛びまして、5ページ目です。こちら、前回、倉持副議長から修正いただいたところを直しております。図書館の内容で、上から3行目、「令和2(2020)年度の人数で延べ」となっていたところ、「令和2(2020)年度延べ206名」に修正してございます。

その2行下ですが、こちらは他のところと合わせるということで、「この2・3年」の中黒を読点にしております。

続きまして、④協定利用図書館との連携のところにつきましては、文章が2つ続いていたんですが、後ろの文章は削除させていただきました。

続きまして、⑤NHK学園図書館との連携のところ、もともと「市民開放していただくことで市民に隙間のない」となっていたところ、「市民開放があることで、隙間のない」というふうに直してございます。

このページの一番下、①しょうがいしゃサービスの2行目です。もともと「資料配布等提案したいが、できていない」となっていたところ、「資料配布等提案したい」という形で修正してございます。

おめくりいただきまして、6ページ目でございます。②高齢者に対する図書館サービスのところで、もともと「連携した取組を、今後検討したい。他市事例等を調査し」と続く文章でしたが、「取組を、他市事例等を調査した上で、今後検討したい」と修正してございます。

次に、(5)国立市公民館のところでございます。こちら、前回の修正箇所ではないんですが、もともとのやり取りを確認しましたところ、ちょっと言い回しが正しくなかった部分がありましたので、事務局のほうで直してございます。もともと「公民館は、芸術や文化に関わる幅広い」となっていたところ、「公民館は、地域の文化や芸術に関わる幅広い」という形に直してございます。

それから、その少し下です。連携を行ったことによる効果の、①のところは誤字でございまして、「一方向」の字を間違えていましたので、正しい漢字に直してございます。

7ページ目でございます。①職員の人手不足のところについて、公民館だけ文章が長いのではないかという御意見があった中で、最後の1文を削除してございます。

続きまして、2.「横断・連携」のプロセス及び得られた成果や意義の(1)のところですが、こちらは議長と御相談する中で修正したところでございます。「地域の暮らしの移り変わりについて、地域で生活の移り変わりを経験してきた方から直接聞くことができ」となっていたところ、「地域の暮らしの移り変わりを経験してきた方から直接話を聞くことができ」に修正してございます。

それから、下から7行目です。「実践経験が積みまれていく」となっていたところ、「積みまれている」という形に直してございます。

続きまして、下から4行目です。もともと「カバーされる」だったところを、「カバーされている」としてございます。

8ページ目でございます。真ん中あたりですけれども、大学の名称の修正でございます。もともと「一橋大学言語社会研究科」となっていたところ、「一橋大学大学院言語社会研究科」に修正してございます。

9ページ目です。こちらは前回御議論いただいたところでございます。「また」から始まるところでございますが、もともとは「また、生涯学習関連施設が主催して」と続きまして、「可能性を広げることにもなるだろう」となっていたところを、「また、アウトリーチ事業は、生涯学習関連施設が主催して行うだけでなく、施設を利用する団体（サークルなど）も、その担い手となり得る。それらをアウトリーチの連携先とつなぐことは、学習成果の活用や事業の活性化の可能性を広げることにもなるだろう」という形に修正してございます。

その次の段落について、「また」が続いているということで、「加えて」と修正してございます。

それから、同じページの（4）ですが、タイトルの修正がございました。タイトルの最後、「情報共有の必要」となっていたところを、「情報共有」という形に修正してございます。

おめくりいただきまして10ページ、4.「横断・連携」を展開するための視点及び提案の、（1）のタイトルについても修正がございました。「さまざまなつながり方があるという視点を持つ」となっていたところ、「さまざまなつながり方がある」に修正してございます。

同様に、（2）のタイトルも最後の部分を修正してございまして、「相互の利益となる関係を構築すること」となっていたところを、「相互の利益となる関係を構築する」に修正してございます。

こちらは本文の修正もございまして、一番最後の行、「互いの強みや利点を生かし合えるような協議のうえで「横断・連携」の関係づくりを構築することが重要である」となっていたところを、「互いの強みや利点を生かし合えるよう、協議のうえで「横断・連携」の関係を構築することが重要である」に修正してございます。

（3）のタイトルも修正がございました。最後のところ、「学習機会や学習成果の活用につながるという視点を持つ」となっていたところ、「学習機会や学習成果の活用につながる」という形に修正してございます。

11ページを御覧ください。1行目、まず漢字の直しとして「学習成果を生かす」を、「活かす」に修正してございます。また、もともと「生かす場であり」となっていたところ、「活かせる機会であり」に修正してございます。

その後、続きまして「学び合う場であり」となっていたところを「学び合う場となり」に修正してございます。

（4）もタイトルで修正がございました。もともと「価値の向上につながるという視点を持つ」だったところ、「価値の向上につながる」に修正してございます。それから、最後の1文を削除するという形で修正してございます。

（5）でございます。タイトルで2か所修正がございました。「中期的に構想すること」だったところ、内容に長期の記載がございましたので、まずは「中長期」に修正してございます。それから、タイトルの文末は「構想すること」ではなく、「構想する」に修正してございます。

さらに、（6）のタイトルの最後も、「身につけること」だったところ、「身につける」に修正してございます。

修正箇所については以上でございます。

生島議長 御説明ありがとうございました。

内容につきまして、私も改めて再度通読をしまして、前回議論いただいたところで修正がされていることの確認をし、さらに私のほうで2か所、郷土文化館のところ、地域の人たちの暮らしの話の聞きという言葉が繰り返しのようになっていたので、そこを整理したのと、「中長期的」というのも、タイトルだけ「中期的」というふうになっていたので、内容と整合を取ったほうがいだろうということで整理をしました。

そのようなところなんですが、どうでしょう。皆様方にも昨日、おとといで配っていただいて、見ていただいているかと思いますが、最後の最後ですけれども、気になる点がございましたら、ここで伺いしたいと思っています。

矢野委員、お願いいたします。

矢野委員 今さらなんですけど、2ページ以降、第1章のところは、丸がついてないんですね。「何とかができる。」という句点がない。たまについているところがあるんですけど。これは内容じゃないので。

生島議長 そうですね。項目の中で文章が切れるときには丸がついているんだけど、項目がこれで終わる場合には、丸をつけていないという状況ですね。多分それで統一されているような感じですよ。

矢野委員 途中で読点がついても、丸はついてないという感じですよ。

生島議長 うん、そうか。文章としては全体、丸がついてたほうがいいんじゃないかという御意見。

矢野委員 そうですね。途中で読点がついている文章もたくさんあるので、それは丸がついていないと、どうかなと。

それと、もう1点。3ページの自然クラブ、これも見過ごして今回気づいたんですけど、「毎回8名程度の会員が参加者を指導し充実した。」、充実した内容となったのか、何かこの後に言葉がないと、途中で切れちゃっているのかなと。

生島議長 ああ、はい。そうですね。「毎回8名程度の会員が参加者を指導し、充実していた」ということでしょうか。充実した内容となっていたというようなニュアンス、充実することができたというようなニュアンスなんだろうと思うんですけども。そういう意味ですか、矢野委員の今の御指摘は。

矢野委員 言葉として、文章として途中で切れちゃった形なので、内容は分かりませんが。

生島議長 今の御意見は、この2点ということによろしいですか。

矢野委員 はい。

生島議長 ありがとうございます。

先に2点目のほうから確認したいと思うんですけども。おっしゃるとおり、「充実させることができた」とか、「充実した内容となった」というようなニュアンスなので、そういうのを加えるとすれば、加えたほうがいかとも思うんですが。いかがでしょうか。

今日ここで決めるとなると、もう確実に言葉をこうしますというふうに決め

てしまって、もちろん私のほうで最終的に確認しますが、それで御一任いただくということで決めていきたいと思います。今の点につきまして、いかがでしょうか。

「会員が参加者を指導し、充実した事業となった」ぐらいにしましょうか。「充実した事業になった」ですかね。

倉持副議長 「活動に」……。

生島議長 「活動になった」。そうですね。「充実した活動になった」。

砂押委員 その後、「また」と入れたらどうでしょうか。「また、継続実施したことで」。その上の①は、ちゃんと「また、国立市にある」と入っています。

生島議長 はい。では、「活動になった。また、継続実施したことで」というふうにしたいと思います。

そして、矢野委員からもう1つあった、丸、句点ですね。確かに、文章中に点があるのに、最後が丸で終わらないというのは、文章として、日本語の表記としておかしいという御指摘はごもっともだと思います。

で、この段階で、全部丸を入れるということ、かなり機械的にできないことでもないかとも思うので、丸を入れていったほうが確実かなと思うんですけども、ちょっとこれは私のほうでも最終的に注意深く確認させていただいて、取りあえず全部丸を入れるということで、表記ミスがないように配慮したいと思いますので、事務局にお願いできますでしょうか。最終確認はもちろん、私もさせていただきます。

事務局 本来は1個1個なんですけど、内容に関わる場所ではないということで、丸を入れるということの統一で了解いたしました。

生島議長 じゃあ、今の2点はこういう形にするとして、そのほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

では、今、矢野委員から御指摘いただきました2点につきましては、最終的に私のほうでも確認させていただいて、その直したものを確定とするということで、ここで決定としたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

生島議長 では、これで報告書として決定することにしたいと思います。

皆さん、大変活発な議論をどうもありがとうございました。お疲れさまでした。

では、次第3、事務局からの連絡事項に入ります。事務局、よろしく願いいたします。

事務局 事務局です。先日、4月15日土曜日に開かれました東京都市町村社会教育委員連絡協議会の定期総会について御報告させていただきます。

当日は、生島議長に御参加いただき、また倉持副議長には立川市の委員として御参加いただきました。

主な内容としては、机上に資料を配付させていただきました定期総会議案書の次第に沿って議事が進められました。最初に前会長の御挨拶、来賓として昭島市教育委員会教育長より御挨拶をいただき、東京都教育庁の社会教育主事の

方は当日御欠席となっております。

その後、議事が進められて、議事内容は全て承認の運びとなりました。議事内容につきましては、事前にメールで送付させていただきました議案書のとおりとなっております。

定期総会の後は、研修会として、東海大学スチューデントアチーブメントセンター、人間環境学研究科の教授である二ノ宮リムさち氏より御講演いただきました。テーマは「学びを広げ、人をつなげ、みんなの願いでまちをつくる～「対話」と「共創」から考える社会教育委員の役割」でお話をいただきました。定期総会の報告は以上でございます。

生島議長 ありがとうございます。

国立市からは私が出席をいたしました。そのときの様子を少し御紹介しますと、総会は粛々と進められました。それから、後半の研修という形で、今御紹介がありました東海大学の二ノ宮リムさち先生からの御講演があったということですが、この講演のタイトルは、今年度のこの地域のテーマになっている事で、それをかみ砕いて理解していこうというようなものだったんですが、特にキーワードとしては、対話ということが非常に重視されていく。この対話というのが、地域をつくっていくときに非常に重要な意味を持つものであって、そうした場をつくっていくことが、実際に昭島市でもなされていて、新しいつながりが生み出されたり、活動が生み出されている様子が紹介されました。これが後半の「あきしま会議」というものになっています。

内容的には、この資料を見ていただければお分かりいただけると思うんですけども、途中途中で「ぺちやくちゃタイム」というのがあります。おっしゃるには、15分以上人の話を聞き続けるのは人権侵害であるというようなことが話題として上がって、だから本当に定期的にぺちやくちゃタイムというのが設けられて、座っている座席の周りの人たちと一緒に、今話してきたことについて、皆さんだったらどう思いますかとかいうことを、それぞれ周りの人たちでお話ししましょうというようなことが、途中途中で入りました。なので、対話のことについて話を聞くというだけじゃなくて、実際に私たちも対話を、周りの人たちとしていくということで。私の周りにいた方は、小金井とか府中の方がいらしたり、何度もありますので、いつも同じメンバーじゃなくて少しずつ拡大したりしながら、それぞれの地域の情報共有をしたり、考えを述べ合っていました。

そしてまた、そういったことを全体でシェアする時間というのもあって、本当に講師の方とフロアの聞いている方との対話ということも、盛り上がっていくということで、単純に講演を聞くだけじゃなくて、この対話というのは、本当に私たちも一緒にやりながら講演をつくっているような感じで、何というか、非常に動きのある講演だったというふうな、ちょっと面白いスタイルだったと思います。ぜひこういうようなことも、皆さんにも体験いただければ面白かったかなと思いますけれども、国立の情報としては、やはり議論が非常に活発に進んでいますから、対話はどんどんされてきたよという話もさせていただきました。

また資料を御覧いただければと思います。

立川からということでしたけれども、倉持副議長、でも講演のときはいらっしやらなかったですね。じゃあ、私からの報告だけとさせていただきます。

ほかに、事務局から何かありますでしょうか。

事務局 当日配付された資料がございまして、本来であれば皆さんにお配りするところですが、今期は今回までとなりますので、よろしければ5月以降の新しい委

員さんのほうにお渡ししたいと考えておりますが、よろしいでしょうか。

生島議長 はい。

事務局 ただ、今期の皆様も見たいよとか、欲しいよということがあれば、コピーなり、余っている分もございますので、事務局のほうにお声かけいただければと思っております。よろしく願いいたします。

生島議長 はい。

それでは、今日が第24期の社会教育委員の会の最終回ということでして、今期を終えてぜひ皆様方から、この会議の御感想などを少しずつ、思い出しながらお話をいただければという時間に、これからしたいと思えます。1人2分ぐらいで、ぜひ感想であるとか御意見とか、いろいろお話しただければと思えますが。日野委員から、よろしいでしょうか。お願いいたします。

日野委員 2年間、ありがとうございました。どうしても学校教育のほうなので、社会教育は、関わりはありますけれども、よく知っているかと言われるとなかなか分からない部分もある中で、本当にいろいろなお話を伺って、市内でも様々な取組が活発に行われているというのを改めて感じました。

このまとめの中にも出てくるんですけども、連携という中で、相互の目という部分ですね、これは本当にすごく大事なことだなというのは感じまして。どうしても学校が様々な機関と連携するようになったとき、例えば郷土文化館で昔の暮らしを教えてもらうとか、図書館で読み聞かせをやっていただくとか、どうしても受け身になりがちの部分が出てくるなと思ひまして。この会で学んだことを生かしながら、一步踏み込んで、双方向のメリットになるような活動に、さらに発展させていければなというふうに思ひました。

本当にありがとうございました。

生島議長 ありがとうございます。

では、砂押委員、お願いいたします。

砂押委員 私も本当にこういう、行政というか自治体の会議に出るとするのは全く初めての経験でしたので、本当にいろいろとんちんかんな意見言ってしまうて、申し訳なかったなと思ひしております。本当にいい経験をさせていただいて、いい勉強をさせていただいたと思ひしております。

特に、今日まとまったこの提案と意見書ということでもありますけれども、いわゆる民間で言うP D C A、プラン・ドウ・チェック・アクションで言うと、生涯学習に関わる各施設の内容の現状を把握、現状をチェックして、連携をめぐる課題を整理し、視点と提案を取りまとめたというところですから、こうやったらどうか、こういう考え方でどうかぐらいの、チェックして、アクションというところまで行ったかどうかぐらいで、終わっていると思ひています。チェックして、手を打つのは何に打つのかというとプランに手を打つわけですから、これを基にどういうプランが出てくるかということを非常に期待しているところです。この視点及び提案というものを受けた側がしっかりとプランに落とし込むという一番大事なところを、ぜひ今後とも見ていきたいと思ひしておりますので、陰ながら、ホームページを見ながらチェックをしていきたいと思ひしておりますので、よろしく願いいたします。

国立市という先進的な文教都市のところでこういう活動に携わらせていただいたことを、本当にありがたく、光栄に思ひしております。

以上です。ありがとうございました。

生島議長 ありがとうございました。
では、矢野委員、お願いいたします。

矢野委員 私は公民館運営審議会の推薦で出席させていただいていますけれども、公民館運営審議会の委員になったのが、この社会教育委員の半年前でして、毎月第2火曜日なんですね。で、こちらの社会教育委員が第4火曜日ということで、第2と第4の火曜日は個人的な用事を入れないようにということで、学校時代、全くなかったんですけど、皆勤賞だという、どちらも皆勤賞なんですけど。最初のときは、公民館運営審議会の進め方というのにやっと慣れ始めてきた頃で、社会教育委員はもちろん内容も違うので、審議の進め方もかなり違うので、それでまたかなり戸惑いましたけれども、またこのやり方もだんだん慣れてきたかなというところでした。

施設の職員の方にはずっとお話を聞いたというのはすごく、こちらも勉強になったんですけど、特に職員の方が、館長とかも含めてなんですけど、普通はもっと、外的な顔というか、本心を出さないという具合が多いと思うんですけども、かなり正直にお話しさせていただいて、それが、職場の実態とか、楽しさも苦しさもすごく正直におっしゃっていただいたのがすごく身にしみたなと思っています。これは市民として、どういう形で今回経験したことを生かせるのかということで、また考えていきたいと思っています。

ただ、一つだけ残念だったのは、この意見書を基に市長、教育長との懇談ができなかったというのはちょっと、本音のお話も出てきて、またちょっと深められたかなとは思っていますけれども、日程的なこともあるのでなかなか難しかったとは思っています。

以上です。

生島議長 ありがとうございました。
では、栗畑委員、お願いいたします。

栗畑委員 体育協会推薦ということで、1期目、初めは想像の中で、どのような会議か、非常に不安がいっぱいでした。ただ、私自身が国立市民として、子育ての頃、よく利用した公民館とか図書館とか、郷土文化館、そういうところの職員の方々のお話が聞けたということは、ある意味ではいろいろな不満もあった中で、でもこういう裏方の大変さがあるんだということで、身にしみるものがありました。

ただ、私自身はもう体育協会ということで、なるべく体育に沿った形での話をしたかったんですけども。そういった中で、今回、非常に難しいテーマだったんじゃないかなと思います。できればもう一つ具体的に、実情の中で突っ込んだ、深掘りしたようなものもテーマにしていただければ、今後いいんじゃないかなと思ったりもしています。

というわけで、2年間、考えてみると非常にあっという間に終わったかなと。当初の計画は、きっとテーマがA、B、Cぐらいやれるんじゃないかというような状況だったと思うんですけど、やはりそれだけ難しかったんじゃないかなと思います。

以上です。

生島議長 ありがとうございました。
では、中野委員、お願いいたします。

中野委員 この２年間、本当に皆さんには大変お世話になり、ありがとうございました。この２４期に参加して、私自身の学びの場が開拓されたのかなと、改めて思っています。また、この会で改めて感想といいますか、感じたのは、生涯学習という考え方の始まりがポール・ラングランのワーキングペーパーにあるとすれば、まだその歴史は６０年にも満たないという学問だということですが、ラングランの『生涯学習入門』、波多野完治先生の訳を読みますと、ラングランの考え方のきっかけが、今のリカレント教育というカリスキリングなんかの考え方に近いのかなと思いますけれども、今期の課題でした横断・連携は、市民の学びの充実に向けた在り方を検討したわけですが、リカレントとカリスキリングのように、実社会への学びの反映というのとは少し違って、楽しく生きるための学びが中心にあったように思いますけれど。

最近、社会が急速に変化していて、人間の生き方も変わってきたようなんですけど、人間っていう生命体としての歴史は、家族社会とか地域社会という、支え合う仕組みの中で生き延びてきたように思っていますけど、近年になって急速に個人主義が優先されるようになってきたのかなというふうにも思っています。

今期のテーマの横断・連携で、学びへの反映ということは、支え合うことで学びを深めて、楽しい人生につながっていくようにも感じました。私自身、地域での連携実践ということをやりたいなと前から思っています。先週も地域の方々と武蔵野美術大学のゼミ展に参加したんですけど、学生さんとの交流ですね。地域の皆さん、とっても喜んでくれています、よかったとか、楽しかったとか、いい学びになったとか、本当にうれしい声をたくさんいただきました。今日頂いたオアシスの最後の８ページ目、一番上にあるジャズライブなんですけど、「協賛：青柳中央会」というふうになっていますけど、これも地域の学びの連携事業として企画したものの一つです。

私は育成会からの参加なんですけれど、地域で子供を育てるという思いで子供の学びに接していきたいと思っていますけれど、今の時代、子供社会が崩壊して、大きな子供が小さな子供の面倒を見るという仕組みがなくなっているのかなというふうにも思っています。そんな中でも、いろいろなサークルに参加している子供は、上級生が下級生の面倒を見る、お世話するという支え合いの仕組みがあるのかなと。このような学びの場が社会全体に広がっていけば、楽しい学びができるんじゃないかな、地域も楽しくなっていくんじゃないかなと。今回、横断・連携ということで様々、そういうことを感じました。

以上です。

生島議長 ありがとうございます。

では、朝比奈委員、お願いいたします。

朝比奈委員 ２年間ありがとうございました。私自身のこれまでの仕事のやり方を考えたとき、どちらかというと与えられたテーマについて、課題について対応策を考えていくということがほぼ占めていたものですから、今回のように横断と連携という抽象的なテーマで議論を進めていくということ自体、私自身が初めての経験だったものですから、そうはいっても、いろいろ議長さん等具体的なものを示されていく中で、活発な議論がされたというのは、本当によかったなと思っています。特に、実際に市の職員の方と意見交換をして、課題等々について提示していただくということは、一つ大きかったかなと思っています。

今回の横断・連携の中で、障害者スポーツセンターのことが取り上げられていて、私自身そこにずっと関わっていたものですから、こういう形でしょうが

いしやと市の行政が関わりを持っていくということは非常にいいことだなと思っておりまして、私自身も、これまで障害者スポーツセンターに勤める中で、市とどういうふうな接点があるのかなということを気にかけていたところがあったものですから、こういう形できっかけとして、しょうがいしゃの理解が広まったということは極めてよかったなと思っていますし、これからこういったことを、横断・連携を通じて広げていくことが必要かなと思っています。

この社会教育委員の会につきましては、ホームページで活動内容、議事内容が公開されていくということもありますので、私自身も、そちらのホームページのほうもまた関心を持って見させていただきたいと思っております。

以上でございます。ありがとうございました。

生島議長 ありがとうございます。

では、笹生委員、お願いいたします。

笹生委員 皆さん、2年間どうもありがとうございました。そして、私は個人的にはこれで、4年で退任する予定なんですけれども、4年間ありがとうございました。

4年間関わらせていただいて、一方的に学ばせていただいたことばかりだなというのが一番の感想です。一つは、私自身、一橋大学で学生時代の5年間を過ごし、今の職場で8年間過ごしているわけなんですけれども、やはり国立市の社会教育、生涯学習はすばらしいということはもちろん、本の知識とかではよく知っていましたが、そういったものを肌で実感できた。特に、積み重ねてきた歴史の重みというのは本当に端々に感じることもあり、本当に生きた、いい学びをさせていただきました。

また、この2年間のテーマだった横断・連携ということに関しても、どうしても国立市の社会教育であっても民間の力を借りなきゃいけない、そういった現状もよく理解できましたし、それが時代の潮流だとは思いますが、ですので、そういったことが肌で分かったのもよかったですし、また現場の人が非常にもがいて、市民にいい学びをしていただくように活動しているということも、すごくよく理解できました。ありがとうございました。

最後に、今日、砂押委員も同じようなことをおっしゃっていたと思うんですが、この4年間やらせていただいて、例えば生涯学習の情報の発信みたいな意見書を出したこともありましたし、人材の育成みたいな意見書も出したことがありましたけれど、残念ながらそれが、じゃあ、どういうふうに行行政は変わっていくかということに関しては正直、欲しい成果があったのかということ、心もとない面もあると思っておりますので、国立市の生涯学習、社会教育をよくする上で、社会教育委員の役割というのは大きいと思っておりますから、ぜひこれからも活発に意見をして、国立市の社会教育、生涯学習をよくしていただければいいなと思います。

本当にどうもありがとうございました。

生島議長 ありがとうございます。

では副議長、倉持委員、お願いいたします。

倉持副議長 倉持です。私は4期8年、ちょっと長くなっちゃったんですけど、関わらせていただきまして、この生涯学習振興・推進計画を立てるところの議論から、それを立てた後の、先ほど笹生委員がおっしゃった情報の発信であったり、評価の在り方だったり、人材だったり、今期にやった連携・協働だったり、生涯学習振興・推進計画を基に、それをどう現実化、実現化していく

かということについての議論を、この間、関わらせていただきました。

ほかの委員の皆さんおっしゃったように、今期は特に、いろいろな施設の職員さん、あるいは管理職の方のお話を直接この場で聞き取ることができて、それ自体も非常に価値あるものでしたし、また、その経験を基にこの場で皆さんといろいろな議論ができたということが、非常に印象にも残っていますし、それが本日、このような意見書としてまとまったということが、成果の一つかなと思います。

計画を立てるときにも、いろいろな情報とか聞き取りをした基に立てているんですけども、間にコロナのパンデミックもあったりして、そういった中で直接現場でいろいろな創意工夫をしながら取り組まれているお話を聞いたというのはよかったですと思いますし、それを市の生涯学習、社会教育の推進にどう生かしていくのかということころは、とても大事な観点かなと思います。

繰り返しになるんですけども、やはりここで議論したことがどのように実際に展開されていくのかということころをチェックすることそのものも、もしかしたら社会教育委員の役割の一つだとは思いますが、どうしても任期ごとにテーマというか議事というものはあるんですけども、そういった部分を、提供された議事、議題だけじゃなくて、こちらから質問や問合せをしていくというのも少し、自分自身も含めてできたことかなと思いますので、次期の委員の皆さんにはその辺りのことも含めて御対応いただけたらいいかなと思います。

さっき矢野委員がおっしゃっていたんですけど、社会教育委員って、教育長さんとか市長さんもそうなんですけど、教育委員さんとの意見交換ということも、本当はできるというか、役割の一つだと思うんですけど、これは国立だけじゃないですけど、それはなかなか実現できている自治体ってあまり多くなくて。でも、社会教育や生涯学習って市の教育の中の一つの重要なブロックで、教育委員さんはどうしても学校教育のを中心に議論されていると思うんですけども、最初に日野委員がおっしゃったように、それは両方があって、もともと市民の主体的な学びの下にそれはあるんですけども、それを市としてどういうふうバックアップしていくかということころでいうと、そういう意見交換もあってもいいことかなと思うので、その辺りも次期のチャレンジとして、勝手に言うだけなのであれですけども、大変お世話になりましたということと、多分また他市の委員として皆さんとお会いすることもあるかもしれませんので、その際はまたどうぞよろしく願いいたします。

ありがとうございました。

生島議長 今、石居委員に来ていただいたので、私が先にお話しして、石居委員にしたほうがよろしいですよ。もう最後になっちゃったんですが。

石居委員 そうなんですか。すみません。何でもいいです。

生島議長 では、石居委員、来たばかりですけども。一言いただけますか。

石居委員 すみません。本当に最後まで申し訳ありませんでした。

私は図書館協議会から選出されているんですが、図書館協議会が3期目で最後の期になりまして、あと1年半で期が終わるものですから、ここで社会教育委員のほうは任期終了ということにさせていただくことになりました。引き続き、図書館協議会は今、会長をやっていますので、そちらのほうから関わらせていただくことになると思いますので、よろしく願いいたします。

本当に今期は全然仕事ができなくて、申し訳ありませんでした。本当にありがとうございました。

生島議長 ありがとうございます。

最後、皆さん本当に内容濃く、いろいろ振り返っていただいたかと思うんですけども、私も振り返ってみると、実は2022年に帝京大学に着任して、すぐにこの委員を受けることになって、しかも議長になったということで、私も不安だったんですけども、皆さん方も、全然右も左もこの辺のことが分かっていない議長で大丈夫かというふうな御不安も、きっとおありだったんじゃないかなと思います。でも、この立場に立たせていただいて、本当に東京都であるとか三多摩の地域、そしてその中心でリードしてきた国立市の社会教育というのを、社会教育委員という立場から見させていただいて、一つ洗礼を受けたという感じもありますし、でもだからこそ、非常に分かりやすく、いい機会をいただいたということで考えております。

今期は教育長からの諮問がないということで、初めてだったというふうに伺っているんですけども、要するに課題の析出から議論をしていく、そしてまたそれをどうやってひもといていくかといったとき、それぞれ皆さんが思っている景色というのが違うので、なかなか議論が、どういうふうに展開すればいいか悩ましいところでもあったんですけども、先ほど来お話があったように、現場の方々に来ていただいてお話を聞くという、内容の意義というのも非常に大きかったと思いますが、そうした経験が社会教育委員の共通の土俵を持てたというふうにも思っております、そういう意味で、その後の議論というのが大分、イメージが変わったというか、色合いが変わったように私は受け止めておりました。

矢野委員は公運審からおいでいただいていたわけですが、私も議長としては公運審にも2度ぐらい傍聴に行かせていただいたりしたんですが、こちらはふだん公民館を使っておられる方々が参加しているけれども、こちらはそうじゃないところだったので、そういう共通の基盤ができて議論ができたということは、非常に中身も充実したし、私たちも学びになったし、そうした学びの成果というのをこういう報告書で発信できるということは、本当に一つの成果じゃないかなと思います。

先ほど来、皆さんからもお話があったとおり、成果だけにするんじゃなくて、これをまたチェックしていくということが必要だとも思いますし、ぜひこういうふうになったことは、まずは施設の方々に、ヒアリングさせていただいた施設の方々が今度どう受け止めたりするかということから、何か聞いてみたいという感じもするんですけども、そういうふうに思っております。

本当に拙い司会で、皆さん方にもいろいろ御不安をおかけしたり、御不満もあったかと思っておりますけれども、御協力いただきまして本当にありがとうございました。

一通り、皆さん最後にこうやって顔を合わせられましたので、ここで終わりにしたいと思いますけれども、最後に何か言い残された方はいらっしゃらないでしょうか。大丈夫でしょうか。

事務局のほうもよろしいですか。これで終わらせてしまっ。

事務局 お世話になりました。

生島議長 では、以上をもちまして第24期の社会教育委員の会を終了したいと思います。皆様、本当に2年間、どうもありがとうございました。